

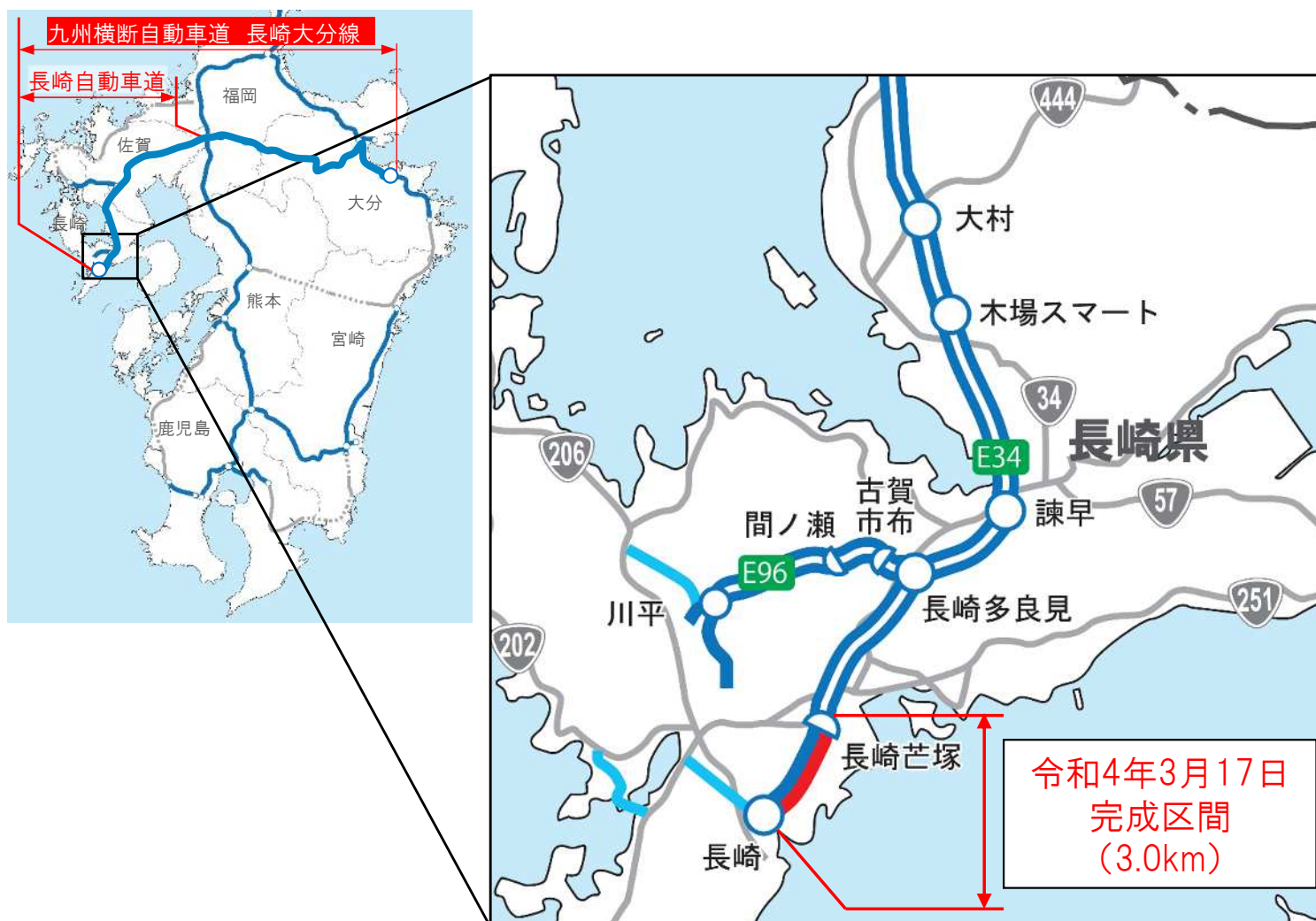
■完成区間の概要

九州横断自動車道 長崎大分線は、長崎県長崎市を起点として、大分県大分市に至る総延長約257kmの高速道路です。九州縦貫自動車道とともに、九州の一体化を進め、沿線地域の振興に重要な路線として位置付けられています。

このうち、起点に位置する長崎IC～長崎芒塚IC間の4車線化がこの度完成し、九州横断自動車道 長崎大分線が全線にわたり、4車線でご走行いただけるようになります。4車線化での交通運用開始に伴い、安全性・走行性の向上、災害時の代替機能の強化など地域の発展に貢献すると期待されます。

- 路線名：九州横断自動車道 長崎大分線
- 道路名：E34 長崎自動車道 はやさかまち
- 区間：長崎IC(長崎県長崎市早坂町)～長崎芒塚IC(長崎県長崎市芒塚町) すすきづかまち
- 延長：3.0km
- 完成日時：令和4年3月17日(木曜)10時
※悪天候などにより、順延する場合があります。

◆今回完成区間の位置図



■さらなる安全性の向上

- 暫定2車線区間は4車線区間に比べて、事故が発生する割合や死亡事故となる割合が高く、事故発生時に通行止めとなる割合も高くなっています。
- 4車線化により中央分離帯を設置し、対向車線への飛び出しを防止することで、安全性の向上が期待されます。

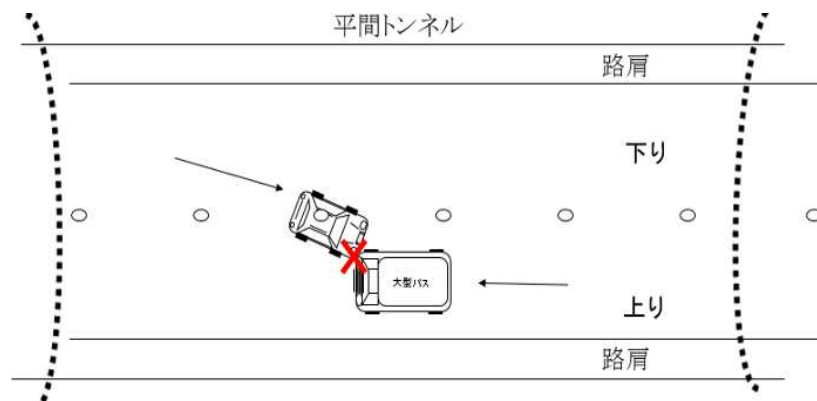
●交通事故による通行止め事例

発生日) 平成28年5月25日

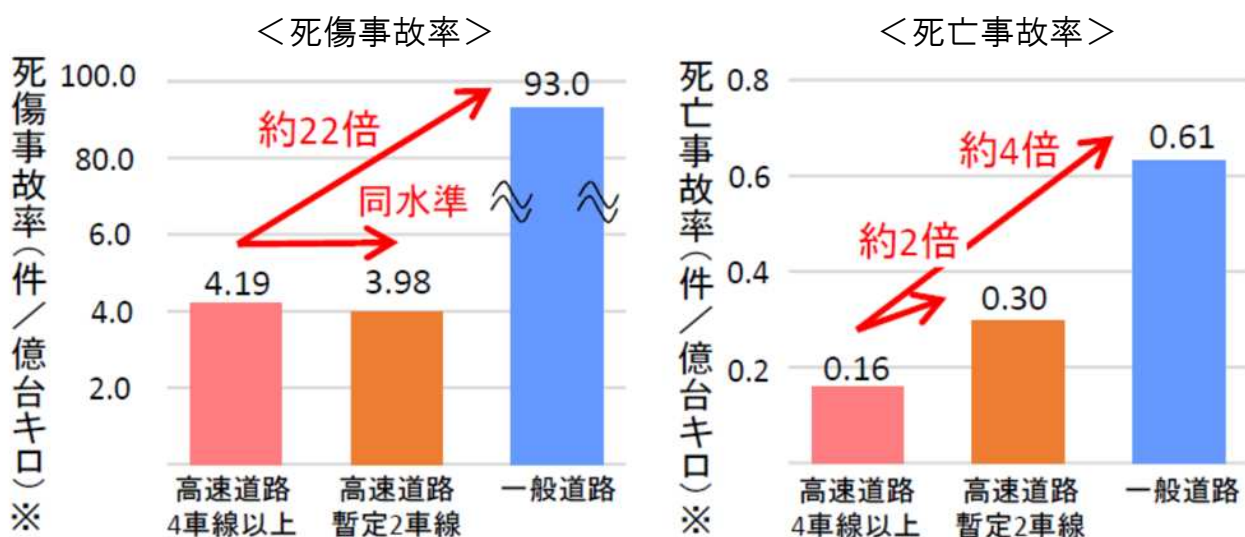
発生場所) E34 長崎自動車道(長崎芒塚IC～長崎多良見IC)

事故概要) 下り線を走行していた車両が対向車線(上り線)へ飛び出し、上り線走行中の大型バスへ衝突したものの。

4時間45分の通行止め



●暫定2車線と4車線以上の事故率



出典 道路分科会第13回事業評価部会(H28.3.10)

4車線化により中央分離帯が設置されることで、安全性が向上

■災害時のリダンダンシー機能強化

- 異常降雨によるのり面崩壊等の災害時において、対面通行となる暫定2車線区間では、復旧工事がすべて終わらなければ通行する車線を確保することが困難なことから、通行止めが長時間必要になります。
- 4車線以上の区間では、被災した側の車線の復旧工事を行いながら、同時に反対側の車線を対面通行運用するなど、車線を有効に活用することで、災害時の迅速な交通確保などが可能となります。

《暫定2車線区間の災害復旧事例》

区間： E10 東九州自動車道
 椎田南IC～豊前IC
 概要： 平成30年7月豪雨 のり面崩壊



暫定2車線区間は、復旧作業が終わらないと交通確保が困難



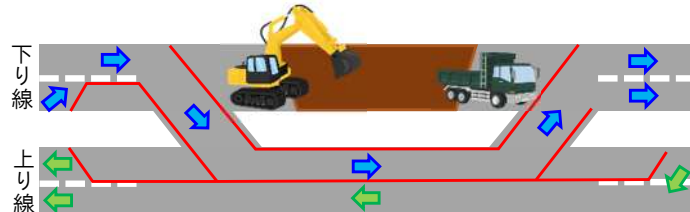
全面通行止め:約1か月間

《4車線区間の災害復旧事例》

区間： E3 九州自動車道
 溝辺鹿児島島IC～加治木JCT
 概要： 令和元年7月豪雨 のり面崩壊



4車線のうち、2車線を復旧作業の施工ヤードとして利用し、早期に交通を確保



<対面通行>
 (上り線) (下り線)

<復旧作業ヤード>



全面通行止め:約2日間

■定時性のさらなる向上・道路機能の強化

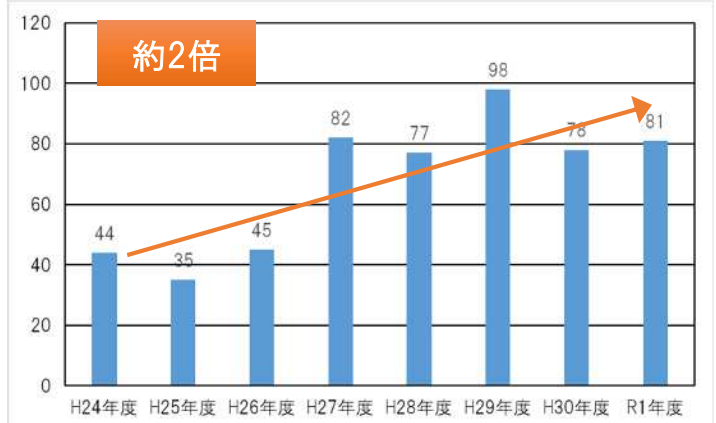
(1) 救急医療活動の支援

- 長崎市消防局では、長崎市内の二次救急医療施設などから長崎医療センター（三次救急医療施設）へ搬送する場合、高速道路を利用しています。
- 長崎市南部からの搬送は長崎道を利用する場合があります、4車線化により、救急搬送時の通行止めリスク回避が期待されます。

◆長崎市内から長崎医療センターへの搬送ルート



<長崎道を利用する際の搬送実績件数>



・暫定2車線の場合、事故等により通行止めとなる可能性が高いため、4車線化によって救急搬送時のリスク回避に期待しています

長崎市 消防局



出典：長崎市消防局提供資料

(2) 高速バスの利便性向上

- 長崎市内から長崎空港への高速バスの利用者数は年々増加しており、特に長崎道ルートの利用が多く、平成22年度から約14万人増加しています。（約1.2倍）
- 長崎空港への高速バスは、航空機の出発時刻に合わせて運行されているため、4車線化による定時性の更なる向上・道路の機能強化が期待されます。

◇ JR長崎駅⇄長崎空港

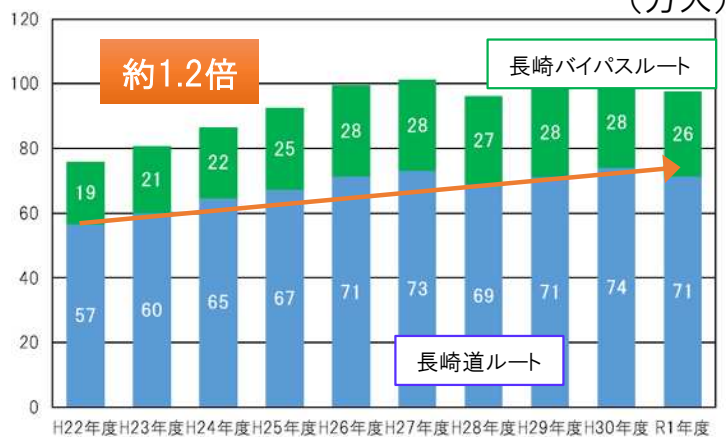
（長崎リムジンバス、長崎空港線エアポートライナー）



出典：長崎リムジンバス 時刻表より

<JR長崎駅～長崎空港間利用状況>

（万人）



・長崎空港への高速バスは定時性が重要となることから、4車線化による定時性の向上などに期待しています

バス会社



出典：バス会社提供資料